

輸出に取り組む6次化事業者



愛情いっぱい育てた おいしい野菜を鹿児島から世界へ



有名シェフが営む銀座の高級懐石料理店にも納品されているキャベツ。農業女子プロジェクトに参加している枝美さん。もともとは看護師として勤めていたが、夫が祖父母の畑を継いだのを機に2007年に就農した。



作物は子どもと同じ。愛情いっぱい育てるとその分だけ応えてくれます。

鹿児島県薩摩半島の最南端にある指宿市、開聞岳のふもとの農地約25haでキャベツ類を中心に生産している大吉農園。経営しているのは、大吉枝美さんとご主人だ。

11月から5月頃まではキャベツやケールを出荷。キャベツは、そのまま食べてもおいしく、果物を思わせるほど甘い。8個入りの段ボール箱で毎日1000ケースを出荷している。

6〜7月には裏作の枝豆を出荷する。品種は「湯あがり娘」。無農薬栽培や収穫後の徹底した冷蔵管理により、糖度33・3%で甘く香り高い。期間中は毎日3000パックを出荷する。しかし、1シーズン約3・5tの枝豆が余っていた。これを冷凍加工し、販売するつもりで県の加工技術研究センターに相談すると、フリーズドライを勧められた。試すと、枝豆の特長と鮮やかな色がそのままに近い形で残り、製品化を決意。今では都内の百貨店やワインバーなどへ納品している。

大吉農園は、フリーズドライ枝豆と生鮮キャベツの輸出にも取り組んでいる。「シンガポールでは日本産キャベツが1

個800円くらいで売られている」という話を聞き、輸出に興味を持った。GFPを知り2018年11月に登録した。翌年3月にGFPを通じて輸出商社を紹介され、7月には、同社がマカオの百貨店で開催した鹿児島物産展で販売。フリーズドライ枝豆は、味、香り、パッケージの良さに加え、さらに「子どものおやつに最適」など現地の消費者にも好評だった。今後は、同社と次なる海外展開も計画している。

さらに、GFPを通じて、鹿児島県貿易協会が実施する「うんまか鹿児島輸出商談会」も紹介された。2019年9月の参加をきっかけに、大手小売業者の海外店舗向けに生鮮キャベツの輸出が決まり、11月からシンガポール、香港、タイの3カ国に1回5500個(5・5t)の輸出を始めた。「GFPに登録してから、急に輸出の道が開けた」と話す枝美さん。JGAP認証に加え、2020年1月にはAS-IAGAP認証も取得。海外販路の拡大を計画している。

輸出に取り組むことで、愛情込めて育てた野菜が世界に羽ばたいている。

大吉農園

住所：〒891-0513 鹿児島県指宿市山川岡尻ケ水1832-1
TEL：080-6433-6860

大吉農園の枝豆の6次化商品。枝豆をフリーズドライにし、枝豆本来の香りと旨味をそのままに。おやつにもおつまみにもよく合います。



1億人ではなく、100億人を見据えた農林水産業へ。

GFP(ジー・エフ・ピー)とは、Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Project の略称であり、農林水産省が推進する日本の農林水産物の輸出プロジェクトです。日本の誇る農林水産物が広く海外へと輸出されていくよう農林水産省が全力でサポートします。

1 輸出診断・訪問診断

農林水産省がJETRO、輸出の専門家とともに、生産現場等に直接出向いて「輸出の可能性」を無料で診断します。

2 GFPコミュニティサイト

各登録者が、自分の商品やサービスをGFPサイトのマイページで発信したり、気になる事業者に直接コンタクトできます。

3 商品リクエスト

輸出商社等が現地ニーズに基づく「商品リクエスト」を発信し、生産者等との商談につなげるサービスです。

4 グローバル産地づくり推進事業

輸出先国のニーズと規制等に対応し、積極的に戦略を持って輸出への取組を行う産地形成を支援する事業です。

5 交流会・セミナーの開催

情報交換、交流、知識の習得を目的としたセミナー等、多様なイベントを開催します。

6 情報発信

会員限定メールの配信、FacebookでGFP関連の情報発信、GFP登録者の発信のシェア等を随時行っております。

Facebookでも輸出診断の様子を紹介しています。



6次化とは? 「6次化」は、生産者と距離が近づくキーワード!

6次産業化(6次化)とは、1次産業を担う農林漁業者が、加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)にも取り組む経営形態を指します。つまり1次×2次×3次=6!で6次化。生産者が熱い思いで行う6次化は、わたしたち消費者と生産者の距離が縮まるきっかけにも。作り手の顔が見える6次化商品に、要注目です!